

儲かる農林業の実現に向けた県南地域の取組方針 令和7年度の主な実績等

1 大規模水稻経営体の育成（生産性の高い水田農業の確立）

○100ha超の大規模水稻経営体の育成（生産性の向上）

○目標の達成状況

指標名	R 6 年度実績	R 7 年度目標	R 7 年度実績
100ha以上 ※100ha未満でも粗収益 1億円以上の経営体を含む。	16経営体	16経営体	37経営体
50～100ha	38経営体	41経営体 (3経営体育成)	27経営体

(既存21 + 新規6 経営体)

○R 7 年度の実績や主な取組

- ・米価高騰の影響もあり、100ha超が1経営体（内訳：つくば市1）、粗収益概ね1億円以上が20経営体増加（内訳：龍ヶ崎市6、稲敷市8、河内町5、美浦村1）した。
- ・経営体別の技術・経営支援や近隣農家の離農に伴う農地の集積の話し合い、調整等を支援した。
- ・カメムシ等の防除指導、高温耐性品種「にじのきらめき」「ふくまる」の導入を推進した。



ほ場整備後、集落営農組織が作付開始（龍ヶ崎市）

○経営感覚に優れた大規模水稻経営体の育成（経営の効率化）

○目標の達成状況

指標名	R 6 年度実績	R 7 年度目標	R 7 年度実績
スマート農業機械 導入経営体数	158経営体	166経営体	169経営体

○R 7 年度の実績や主な取組

- ・ドローン、自動抑草ロボットの事例紹介や技術実証、補助事業の活用推進により、新たに11経営体がスマート農業機械を導入した。
- ・R7年度の導入機器（台）

自動操舵・ガイダンス機能付トラクタ	ドローン（肥料・農薬用）	自動操舵・ガイダンス付田植機	自動操舵システム	収量コンバイン	営農管理システム	GPSレベラ	可変施肥対応田植機	ドローン（空撮用）
17	11	10	8	7	7	2	2	1



ドローンは種の現地検討会（稲敷市）

儲かる農林業の実現に向けた県南地域の取組方針 令和7年度の主な実績等

2 日本一れんこん産地における持続可能な儲かる農業の展開（規模拡大を目指すれんこん経営体の育成）

○黒皮症の防除対策の推進（栽培上の課題解決に向けた取り組み）

○目標の達成状況

指標名	R 6 年度実績	R 7 年度目標	R 7 年度実績
黒皮症被害程度指数	17.8	11.6以下	17.8

○R 7 年度の実績や主な取組

- ・黒皮症対策として、休作や石灰窒素施用等の実証圃や展示圃の設置による効果の検証や講習会など生産者が集まる機会での資料の配布等により、対策技術の情報提供を行った。代替地のない対策重点地域において、R 7 年度も6.7haの休作面積を確保できた。
- ・ハス原種増殖圃の生産支援によるセンチウ汚染のないハス原種の供給や、種ハスのセンチウ検査により汚染された種苗によるセンチウの拡散を防止した。
- ・今後も、健全な種ハス生産や休作、夏期の石灰窒素散布等のセンチウ低減技術等に関する情報提供を行い、関係機関と連携し被害の拡大抑制を図る。



目揃会の様子（JA水郷つくば管内）

○霞ヶ浦に配慮した適正施肥の推進（環境にやさしい生産技術による施肥窒素量の削減）

○目標の達成状況

指標名	R 6 年度実績	R 7 年度目標	R 7 年度実績
10aあたりの投入窒素量	18.5 kg	24.0 kg以下	21.9 kg



○R 7 年度の実績や主な取組

- ・適正施肥技術に係る展示圃を設置し、技術の展示及び普及を推進した。
- ・JA水郷つくば阿見レンコン部会において、過去2カ年の実証圃結果について目揃会や個別指導を通じて情報提供し、診断施肥の推進を図った結果、次作に向けて新たに4戸で診断施肥を実施することになり、計8戸で取り組む見通しとなった。
- ・継続的な適正施肥の推進活動や診断施肥を行ってきたことにより管内の10aあたり施肥窒素量は21.9kgとなり、目標値以下を維持することができた。
- ・今後も、関係機関と連携し、環境に配慮した適正施肥技術の周知・指導により、10aあたりの投入窒素量24.0kg以下の維持を図る。

儲かる農林業の実現に向けた県南地域の取組方針 令和7年度の主な実績等

3 地域農業を牽引する儲かる園芸経営体の育成（課題整理や解決手段の提案による販売金額の向上）

○販売金額 1 億円経営体の育成（農地集積・補助事業導入・生産技術支援等）

○目標の達成状況

指標名		R 6 年度実績	R 7 年度目標	R 7 年度実績
かんしょ	集積面積	15.8ha	20ha	20ha
グラジオラス	採花率	60%	73%	50%
みつば	面積	0.94ha	0.94ha	0.94ha
こまつな	面積	3.1ha	3.1ha	4.0ha



抑制作型におけるグラジオラスへのかん水の様子（土浦市）

○R 7 年度の実績や主な取組

（かんしょ複合経営体）

- ・農業委員会からの農地紹介により、集積面積は約20haに増加した。作付面積は、ばれいしょ13ha、かんしょ3.2ha、にんじん50a、大豆1.3ha、そば12haの計30haとなり、前年度より11.8ha増加した。儲かる産地支援事業による機械導入支援、収量・品質向上対策の実証ほ設置等の技術支援により販売金額は向上した。

（グラジオラス複合経営体）

- ・夏季の高温に対し、かん水とスプリンクラーを用いた穂焼け対策の検証を行ったところ、かん水による明確な生育向上効果が見られたが、輸入球根の調達不安定化による作付面積の減少、抑制作型における曇天による生育遅延と霜害により採花率が減少し、販売額が減少した。

（みつば複合経営体）

- ・R 6 年度に新設したハウスにおいて、ハウス環境・生育状況、病虫害発生状況の確認を行い、8月中旬に発生した病気の病原菌を特定し、湿度条件の適正化及び薬剤による防除を支援した。また、夏季の高温対策として、遮熱資材の導入等も併せて検討し、収穫量の増加により、販売金額が増加した。

（こまつな複合経営体）

- ・融資申請書に係る生産計画の作成支援により、ハウスが90a増設され、こまつなの生産面積の拡大に繋がった。その他、流通過程の品質管理、土壌改良、雑草防除などに関する情報提供を行い、連作障害を回避するため太陽熱消毒と堆肥投入を指導した結果、販売額が増加した。また、昨年度実施した規模拡大後の経営分析を行ったところ、農薬費、肥料費、人件費において当初目標より10%程度削減することができた。



新設したハウスにおけるみつば栽培（土浦市）



儲かる農林業の実現に向けた県南地域の取組方針 令和7年度の主な実績等

4 水田の有効活用の推進（水田における農業経営の安定と所得向上）

○水田高収益作物の導入面積

○目標の達成状況

指標名	R 6 年度実績	R 7 年度目標	R 7 年度実績
水田高収益作物の導入面積	1,834ha	1,859ha	1,807ha

○R 7 年度の実績や主な取組

- ・ 県南地域の水田に導入される高収益作物のうち、主な品目はれんこん。
- ・ 高収益作物の導入面積の拡大に向け、各種補助事業や基盤整備事業の活用と栽培技術指導等による支援を行った。
- ・ 昨年に引き続き、水田に抑制カボチャの実証ほを設置し、水田における栽培適応性や収益性を検討したが、収量や歩留の向上が課題として残った。



水田高収益化作物（抑制カボチャ）の実証圃巡回の様子（龍ヶ崎市）

○新規需要米（米粉用米、飼料用米、wcs用稲、新市場開拓米（輸出用米））の導入面積

○目標の達成状況

指標名	R 6 年度実績	R 7 年度目標	R 7 年度実績
新規需要米の導入面積	4,968ha	—	2,038ha

○R 7 年度の実績や主な取組

- ・ R 6 からの主食用米の価格高騰により、新規需要米（特に飼料用米）から主食用米への転換が進み、新規需要米の導入面積は大きく減少した。
- ・ R 7 年産の新市場開拓米（輸出用米）は、作付面積が198haとなり、前年産の294haを大きく下回った（前年比67%）。一方で、新たに6経営体为新市場開拓米の契約・販売に至った（12ha、龍ヶ崎市7.7ha・阿見町4.6ha増）。
- ・ 新規需要米等の推進にあたり、民間業者等からの情報収集や補助事業を通じた推進、担い手への「新規需要米等シミュレータ」の活用支援等を行った。



新規需要米等の動向に関する聞き取り調査の様子（稲敷市）

儲かる農林業の実現に向けた県南地域の取組方針 令和7年度の主な実績等

5 有機農業の推進（農産物の高付加価値化と環境負荷低減の両立）

○有機農業の取組拡大（有機JAS認証取得に対する支援、栽培技術支援等）

○目標の達成状況

指標名	R 6 年度実績	R 7 年度目標	R 7 年度実績
有機JAS認証 取得面積	203ha	214ha	224ha

○R 7 年度の実績や主な取組

- ・茨城県有機農業実態調査（R 8 年 3 月現在）により、管内の有機農業の状況は 72経営体、224haで有機JAS認証取得を把握した。面積比では、野菜が約65%、水稻が33%を占める。
- ・環境保全型農業直接支払事業（国補）により、管内の有機農業面積 170haに対し、掛かり増し経費を支援した。
- ・かすみがうら市では「グリーンな栽培体系加速化事業」を活用して自動抑草ロボットによる抑草技術や自動水管理システムによる見回りの省力化技術について、有機水稻栽培における実用性の検証を行った。今後は、水稻の有機栽培マニュアル策定につなげ、有機農業の面積拡大を図る。
- ・「つくば地域有機農業支援研修会」の開催や「いしおかオーガニックフェスinやさと」の開催支援を行うことで、有機農業産地づくりの取組を推進した。
なお、つくば地域有機農業支援研修会では、有機農業に興味のある24名の参加があり、有機農業にすでに取り組んでいる6名に加え、令和8年から新たに1名が有機農業に取り組むこととなった。

抑草技術：雑草の発生や生育を抑えること



アイガモロボットによる抑草（かすみがうら市）



いしおかオーガニックフェスinやさと（石岡市）

儲かる農林業の実現に向けた県南地域の取組方針 令和7年度の主な実績等

6 常陸牛の生産拡大（品質向上とブランド力強化）

○子牛登記頭数の拡大（授精技術を活用し、高能力な繁殖雌牛を効率的に増頭する取組を推進）

○目標の達成状況

指標名	R 6 年度実績	R 7 年度目標	R 7 年度実績
子牛登記 頭数の拡大	892頭	920頭	845頭

○R 7 年度の実績や主な取組

- ・子牛の生産出荷を行う和牛繁殖農家の高齢化による廃業や飼料価格の高騰のため、繁殖農家数及び繁殖雌牛の飼養頭数が減少し、子牛の登記頭数が減少した。
- ・常陸牛の更なる品質向上とブランド力強化を図るため、オレイン酸割合等の肉質に関する遺伝的能力に優れた繁殖雌牛を増頭する取組を推進した。
- ・県南地域の和牛繁殖農家（13戸）から生産された雌子牛（50頭）のうち遺伝的能力（オレイン酸割合が高い等）の優れた雌子牛16頭を高品質な繁殖雌牛として選抜し、繁殖農家に自家保留した。
- ・農家が飼養する遺伝的能力が高い繁殖雌牛18頭から167個の受精卵を採卵した。この受精卵を活用し、能力の低い繁殖雌牛や乳用牛等への移植を農業者自ら実施することにより、高能力な黒毛和種子牛の生産拡大を推進した。

- *繁殖雌牛：肥育する素となる子牛を生産する雌牛。子牛の発育や肉質に影響する遺伝的能力が重視される。
- *和牛繁殖農家：黒毛和種の母牛に子牛を産ませ、子牛を約10か月まで育てて市場に出荷する農家。
- *オレイン酸：和牛肉の脂肪の構成成分で、オレイン酸割合が高くなると、風味が良く、脂の口どけも良くなる。
- *受精卵：優良な母牛から得られた受精卵を他の雌牛に移植することで優良な子牛を生産することができる。
- *黒毛和種：和牛の品種の一つで、肉質のやわらかさや風味など食味の面で高く評価されている。



子牛市場の様子（常陸大宮市）



和牛繁殖農家での野外採卵

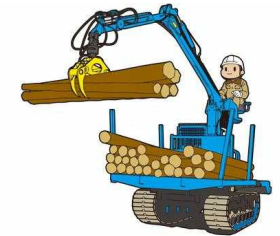
儲かる農林業の実現に向けた県南地域の取組方針 令和7年度の主な実績等

7 林業経営の自立化（森林の集約化に取り組む林業経営体に対する支援）

○再造林面積（森林資源の循環利用）

○目標の達成状況

指標名	R 6 年度実績	R 7 年度目標	R 7 年度実績
再造林	未実施	3 ha	3 ha



○R 7 年度の実績や主な取組

- ・自立した経営のためには、収穫期に入った本県の人工林を主伐（木を収穫するための伐採）・再造林（再度木を植えること）することにより森林資源の循環利用を進めつつ、収益を上げていく必要があることから、つくばね森林組合では初めて主伐再造林に着手し、目標どおり石岡市小幡地区で3 haの再造林を実施した。
- ・円滑な施業を行うため、既に主伐再造林を実施している笠間広域森林組合の施業地において、作業道の配置、地拵え（植林に向けた準備）及び植栽の方法など、主伐再造林に係るノウハウについて情報収集と意見交換を行った。
- ・さらに、石岡市小幡地区の主伐・再造林の施業地において、各農林事務所の林業普及指導員、各森林組合を集めた現地検討会を開催し、主に主伐時に使用した林業機械等を地拵えにも活用する効率的な方法を検討し施業に活かした。



作業道取付部指導（石岡市）



現地検討会の様子（石岡市）



植栽状況（再造林）（石岡市）